



多くの特攻隊員を見送った鹿屋市の戦争の歴史

KANOYA's War History

おすすめルート(約3時間)

①②③④⑤ 鹿屋基地コース

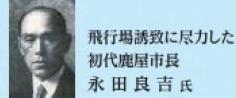
①②③④⑤ 串良・笠野原コース

⑥ 鹿屋航空基地史料館
旧海軍創設期から第二次世界大戦、現在の海上自衛隊の活動に至るまでの貴重な資料が展示されています。

零式艦上戦闘機五二型（復元機）

世界に1機しかない二式大型飛行艇

所在地 鹿屋市西原3丁目11-2（入館は16:30まで）
電話 0994-42-0233 時間 9:00～17:00
休館日 12/29～1/3 入場料 無料



飛行場誘致に尽力した
初代鹿屋市長
永田 良吉 氏

大始農会議員時代の大正6年、「これからの戦争には飛行機が勝敗を決める」と直感し、この場所への民営飛行場の開設（大正11年）や鹿屋海軍航空隊の開設（昭和11年）に尽力したことから、「ヒコーキ代議士」と呼ばれました。終戦後には、鹿屋市の代表として進駐軍との折衝にあたりました。

「鹿屋には3つの基地があった」



A 日本で最も多くの特攻隊員が飛び立った場所

鹿屋海軍航空隊は、昭和11年に開隊。戦争末期には、陸海軍の特攻作戦を指揮する第五航空艦隊司令部が設置されるなど、まさに特攻作戦の中心でした。

昭和20年3月11日、梓特別攻撃隊が鹿屋基地から初めて出撃、また、3月21日には、人間爆弾「桜花」を積んだ神雷部隊が出撃するなど、多くの尊い命が特攻作戦によって失われました。



B 予科練から特攻最前线基地へ

串良基地は、太平洋戦争末期に教育航空隊として開隊され、約5千名の飛行予科練習生の飛行訓練等に使用していました。しかし、戦況の悪化に伴い、昭和19年には実戦部隊に編入され、昭和20年3月からは特別攻撃隊の基地として使用されました。

昭和20年8月15日の終戦を迎えるまでに、363名の特別攻撃隊員と210名の一般攻撃隊員が串良基地から飛び立ち、若く尊い命を失いました。



C 基地であり、滑走路だった！

「笠野原飛行場」は、大正11年に民間飛行場として誕生。昭和16年の真珠湾攻撃に参加した第2航空艦隊爆撃隊も使用していました。

昭和20年3月18日、米軍による集中攻撃を受け、格納庫など基地施設が壊滅的な被害を受けました。

終戦後は、農地として無償で払い下げられ、基地施設があった場所は住宅地に、滑走路があった地区は農地となりました。

ここを建設中には、滑走路のコンクリート片が出土しました。



鹿屋平和学習ガイド

市内に残る戦争遺跡をご案内します。
詳しくは、鹿屋市観光協会HP又はお電話（0994-41-7010）でご連絡ください。

鹿屋市観光協会 で検索!!



[問合せ] 鹿屋市ふるさとPR課 0994-31-1121